

薬系技官として採用されると、おおむね2年ごとに部署を異動します*。

異動を繰り返しながら、様々な業務を経験してキャリアを積んでいきます。異動の頻度は多いですが、前任者からの業務の引き継ぎや、職場の上司や同僚のサポートもありますので、安心して仕事を進めることができます。

※部署によって異なるケースがあります



具体的なキャリアパスの例 —— 国内外で様々な経験をしています！

駆け出しの頃

平成14年に入省し、食品保健部基準課に配属され、残留農薬や食品添加物の基準を担当しました。医薬品とは異なりますが、薬系技官として生物・化学の専門性の求められる業務です。この時、食品規格の国際会議であるCODEX（於ローマ）に参加させてもらったのが人生初の海外経験でした。

1度目の海外～米国で公衆衛生を学ぶ～
人事院長期在外研修員の制度でハーバード公衆衛生大学院に留学しました。他の留学生も多く、自分の世界を広げることができました。

医薬品の国際担当として
帰国後は、審査管理課（在籍時に国際化専門官に昇任）で医薬品の国際関係を担当し、ICHでの規制調和や、経済連携協定交渉の医薬品分野に参加しました。

3省共管の化学物質管理
化学物質安全対策室では厚労・経産・環境の3省共管である化審法を担当。改正化審

法下でのリスク評価の立ち上げを3省共同して行いました。OECDによる化審法GLPの実地査察への対応も行いました。

2度目の海外～世界薬物問題への対応～
外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部へ出向し、ウィーンで行われる国連麻薬委員会において、2016年国連麻薬問題特別総会の準備や合意文書の交渉等を行いました。

コロナ下での国際対応
コロナ下で着任した大臣官房国際課では、ワクチン開発・供給を行う国際組織(CEPI・GAVI)への支援や、ワクチンの共同購入を行うCOVAXファシリティを通じた海外供与に携わった他、コロナ関係の海外情報収集にも従事しました。

室長として
令和3年に化学物質安全対策室長に昇任し、組織・業務の全体的な統括を行うことになりました。これまでの自分で手を動かす業務とは違った難しさがありますが、今までの経験を糧に取り組んでいます。



医薬局 医薬安全対策課 安全使用推進室長 大久保 貴之 OKUBO Takayuki

平成14年 入省
平成17年 人事院長期在外研修員 (ハーバード公衆衛生大学院)
平成19年 医薬局審査管理課係長
平成22年 医薬局審査管理課化学物質安全対策室専門官
平成25年 外務省ウィーン代表部一等書記官
平成28年 医薬・生活衛生局安全対策課課長補佐
令和2年 大臣官房国際課課長補佐
令和3年 医薬・生活衛生局医薬品審査管理課 化学物質安全対策室長
令和5年 現職

先輩薬系技官からのMESSAGE

思い切って行こう！
～よりよい未来の実現を目指して～



医薬局 医薬安全対策課 課長 野村 由美子 NOMURA Yumiko

平成4年 入省
平成22年 厚生労働省医薬食品局審査管理課長補佐
平成25年 厚生労働省医薬食品局血液対策企画官
平成26年 (独)医薬品医療機器総合機構新薬審査第一部長
平成28年 (独)医薬品医療機器総合機構審査マネジメント部長
平成30年 環境省大臣官房環境保健部環境保健企画管理課保険業務室長
令和2年 厚生労働省医政局研究開発振興課治験推進室長
令和5年 現職

薬系技官という職に関心を持ってくださった皆さん、ようこそ。皆さんは、技術系の国家公務員という、どういうイメージを思い浮かべるでしょうか。白衣を着て、実験テーブルに向かっている姿を思い浮かべるかもしれません。残念(?)ながら、実際は、ほぼ100%がデスクワークで、日々の業務は、利害関係者の間の調整や、国会期間中は答弁作成に明け暮れることもあります。しかしながら、一見つまらない、苦しいと感じられる業務の中に、よりよい未来を築いていくヒントがあります。そして、この職場はまさに、よりよい未来を実現するのに一番近い場所です。

私たちは、法律や制度、通達を新しく作成したり、既存の制度に変更を加えたりすることで、そこにある課題を

解決していきます。見つけた課題に対して、できるだけ俯瞰的に状況を把握し、世界の動向に加え、ステークホルダーの状況や様々な事情、少数の関係者の声にも丁寧に耳を傾けた上で、チームとしてあるべき姿を議論し、関係者との意見交換の過程で、実現時期や内容を調整しながら実現に導いていく過程は、何物にも代えられない醍醐味です。

一方で、その影響が重大であるだけに、その方針や内容は、弛みなく取得された最新の専門知識を踏まえつつも、霞ヶ関だけの独善になってはなりません。厚生労働省の施策は、国民の生活に密着した内容が多いために、必ずしも専門知識には詳しくない立場からの受け止めや理解にも適うものでなければなりません。ここは、様々な関

係者の意見を真摯に受け止めることに加え、自身の業務外の経験や知識が生きる場面でもあります。

…とあれこれ書き連ねましたが、様々な熟慮を重ねた上で、最後は、思い切って行こう！です。準備に裏付けられた勇気と批判を受け止める謙虚さをもって、施策を進めていきたいと考えています。

ここは決して楽ができる職場ではありませんが、頑張ったら頑張っただけの賜物が得られる場所です。そして、このような過程が苦しいだけでなく、だんだん楽しいと思える時期に必ずや到達することをお約束します。チャレンジすることで開けてくる未来と一緒にみてみませんか。